

DRI 調査レポート No.58 2025

令和7年8月の熊本県での 豪雨における現地調査報告(速報)

2025年9月24日現在

1. 概要

8月6日から12日にかけて、前線が対馬海峡から九州付近に停滞し、前線や前線上の低気圧に向かって中国大陸や太平洋高気圧周辺から暖かく湿った空気が流れ込んだ。その影響で大気の状態が非常に不安定となり、九州地方では記録的な大雨となった所があった¹⁾。特に10日から11日にかけては、熊本県の熊本地方と天草・芦北地方に線状降水帯が発生し、同じ場所で猛烈な雨や非常に激しい雨が降り続き、災害の危険度が急激に高まった。このため11日0時20分に玉名市及び長洲町に大雨特別警報（浸水害）、5時25分に八代市・宇城市・氷川町に大雨特別警報（浸水害）、6時25分に八代市に大雨特別警報（土砂災害・浸水害）、8時10分に上天草市に大雨特別警報（土砂災害・浸水害）、9時15分に天草市に大雨特別警報（土砂災害・浸水害）が発表された²⁾。

10日22時から11日10時にかけて、熊本県には線状降水帯の発生を意味する「顕著な大雨に関する気象情報」が計5回、稀にしか起きない大雨を意味する「記録的短時間大雨情報」が計15回発表²⁾されており、数時間にわたって危険な雨が降り続いていたといえる。今回の豪雨災害で熊本県内では、9月19日15時時点で、死者4名、行方不明者1名、重傷者3名、軽傷者22名、床上浸水1,716棟、床下浸水435棟等の被害が報告されている³⁾。

人と防災未来センターは、熊本市・八代市・上天草市・天草市に職員4名を派遣し、8月13日、22日及び23日に災害の対応状況等の調査を行った。

2. 調査行程

人と防災未来センターでは、現地に池端祐一朗主任研究員・南貴久研究員・松村圭悟研究員・黒田奈那研究員の4名の派遣を決定し、以下の日程で調査を実施した。

- 8月13日 熊本市（松村・黒田）
- 8月22日 八代市（池端・南・松村・黒田）
- 8月23日 八代市・上天草市・天草市（池端・南）

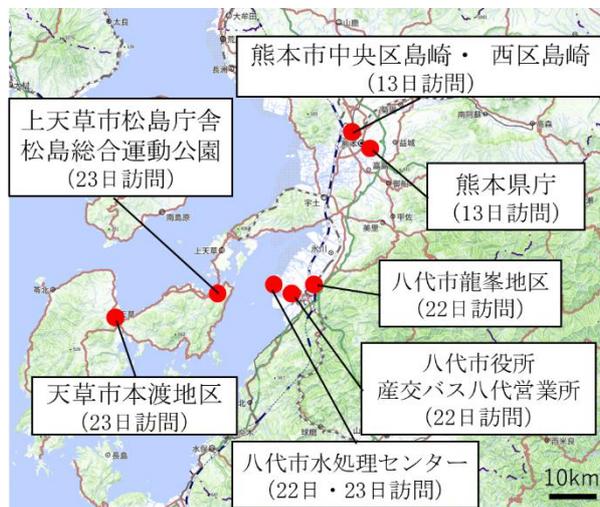


図1 訪問場所

3. 調査報告

(1) 熊本市

熊本県庁（13日訪問）防災センターオペレーションルームでは、県職員のほか、九州総合通信局・通信事業者・九州地方整備局・熊本地方気象台・陸上自衛隊・熊本県警察・内閣府防災の職員が確認された。また、訪問日の朝までは海上自衛隊、航空自衛隊のリエゾンが滞在していたという。当時複数の孤立地域が発生しており、その解消に向けて、道路関係や通信関係機関と調整を行っている様子が見受けられた。併せて市町村と連絡を取り合い、被害状況の正確な把握に努めている様子も確認された。また、防災センター内に記者控室があり、県職員が記者説明を実施していた。



写真1 熊本県庁防災センターオペレーションルーム

県危機管理防災課の職員によれば、訓練の成果を生かして円滑に災害対応に取り組むことができていたとのことであった。

熊本市中央区島崎・西区島崎の井芹川（県管理河川）周辺では、民家のブロック塀等に浸水被害の痕跡を確認した。また、住民が濡れた家財を外に出す、泥を洗うなどの片付けをしており、ごみの収集場所には災害ごみと普通ごみが一緒に置かれている様子が確認された。



写真2 ブロック塀の浸水痕



写真3 収集場所に置かれたごみ

(2) 八代市

八代市役所（22日訪問）では、り災・被災証明書の申請を受け付けており、入口に案内の紙が掲示されていた。

災害対策本部事務室では、対応に漏れが生じないようにデジタル（防災情報システム）とアナログ（地図や用紙）の双方を活用し、収集した被害情報を整理するなどの工夫が見られた。

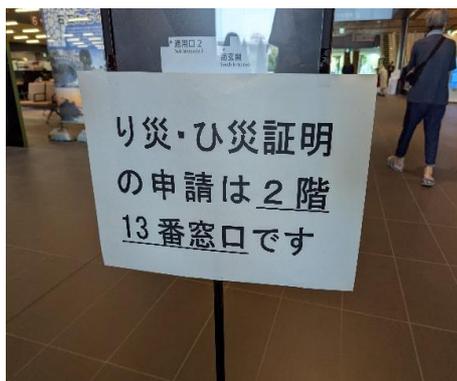


写真4 八代市役所入口の案内掲示

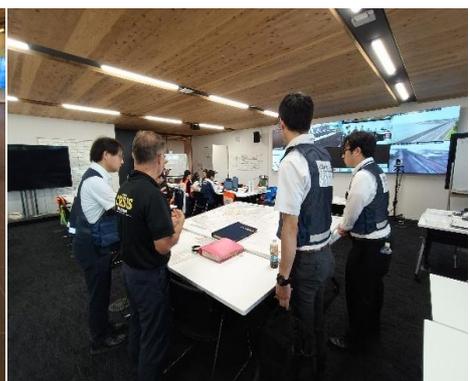


写真5 八代市災害対策本部事務室

産交バス八代営業所（22日訪問）では、大雨によりバスや事務所、整備場が浸水する被害があり、市民の足となっているバスの運転再開に向けて車両整備などの取り組みをしている様子であった。浸水したバスについては、十分に点検・整備をした後に営業運転を再開するとのことであった。



写真6 産交バス八代営業所



写真7 被害を受けたバス

龍峯地区（22日訪問）では大谷川の土石流により、住宅や龍峯小学校に土砂が流れ込む被害があった。ブロック塀等の倒壊の被害も見られた。訪問時には道路上の土砂撤去作業が進められており、一部区間は通行止めとなっていた。

八代市役所龍峯出張所の職員によれば、住民は垂直避難等により当該地区での人的被害はなかったとのことであった。地区内の龍峯コミュニティセンターには当初避難者がいたが、避難所の集約により訪問時には避難者はいなかった。同センター自体も被害を受けており、建物の基礎部分に流入した水を乾かすため、畳や床板を外して対応している様子が見られた。



写真8 住宅に流入した土砂



写真9 八代市立龍峯小学校



写真10 ブロック塀の倒壊



写真11 龍峯コミュニティセンター

八代市水処理センター（22日・23日訪問）には、災害ごみの仮置場が開設され、土砂・がれき類や災害ごみの受入を行っていた。

22日は台風第12号の接近に伴い受入を中止していたが、23日には受入を再開していた。周辺道路に搬入車両の待ち列が形成されており、朝9時の時点で八代運動公園付近まで約500mにわたり伸びていた。この地域は公共施設や工場が立地しており、車列による住宅や生活道路への影響はみられなかった。



写真12 台風による受入中止の看板



写真13 集積された災害ごみ



写真14 搬入車両の待ち列

(3) 上天草市

上天草市松島庁舎（23日訪問）では、土曜日のためほとんどの業務ができていなかったが、来庁者のために職員数名が待機しているとのことだった。市民課の職員によると、り災証明書の交付申請手続き等はピークを過ぎ、一旦落ち着いた状況ではあるが、今後は被害認定調査等が本格化することであった。庁舎入口では、災害ごみのための袋が段ボールに入った状態で配布されていた。被害状況としては、松島総合運動公園周辺の浸水被害が大きく、また市内の多くの地区で土砂崩れ等が発生しているとのことだった。



写真 15 上天草市松島庁舎



写真 16 配布されていた袋

松島総合運動公園（23日訪問）では、ベンチやフェンス等に浸水の痕跡（草・木等）が確認できた。また、駐車場や広場等が災害ごみの置場として使用されていることを確認した。



写真 17 松島総合運動公園のベンチ



写真 18 災害ごみ置場

松島町合津地区（23日訪問）では、多数の浸水の痕跡を確認した。産交バスの「本口」バス停では、地面から約2mの位置まで泥が付着していた。付近の住宅は、1階がほぼ水没する程度の浸水痕も確認できた。また、交番や消防分署、信用金庫の支店等の施設も浸水被害を受けていた。



写真 19 産交バス「本口」バス停



写真 20 生垣の浸水痕

このうち、北消防署松島分署では、1階の床から1m弱の浸水痕が確認された。分署長によると、分署内には3名の隊員が交代で勤務しており、浸水当時は書類を棚の上に上げる等の対応を行ったとのことであった。車両や装備品も水没しており、消防車は代替車両で運用しているとのことである。分署の機能は一時的に上天草市役所松島庁舎内に移されていたが、順次分署に戻しているとのことだった。



写真 21 北消防署松島分署の浸水痕

(4) 天草市

本渡地区(23日訪問)では、町山口川周辺の住宅街や商店街(銀天街)の一部などに浸水した痕跡を確認した。また、報道⁴⁾の通り、祇園橋(国指定重要文化財)の欄干等の一部が壊れているのが確認できた。祇園橋付近では一部堤防が低くなっており、この付近から溢水した可能性が示唆された。



写真 22 建物1階部分の浸水痕



写真 23 祇園橋の被害状況

4. まとめ

今回の大雨災害は、夜間の激しい豪雨により急激に危険度が上昇した事例であり、自治体や住民にとって事前の対応が困難であったと考えられる。また、内水氾濫が外水氾濫に先行して発生し、外水氾濫の危険性が高まった段階ではすでに避難が困難となる場合や、夜間に避難せざるを得ない場合もあり、線状降水帯による豪雨の対応の難しさが浮き彫りとなった。こうした状況において、行政や住民に必要とされる情報やとりうる行動について継続的に検討することは重要である。

一方、今回の調査においては、事前の準備や対応の工夫が奏功した事例も確認できた。これらの詳細や、そうした対応が可能となった背景についても、今後さらに調査を進めていきたい。

現地調査の際、熊本市下通商店街に、1953年の洪水で白川が決壊し、約2mの浸水被害を受けたことを示す看板を確認した。現在では治水対策が進んでいるものの、過去に学び、楽観的になることなく備えることの重要性を改めて感じさせられた。

最後に、被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに、速やかに心穏やかな生活に戻ることができるよう心からお祈りいたします。大変な状況の中、現地にてご対応いただいた皆様・ご協力いただいた関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。



写真 24 1953年の実績浸水深を示す掲示

参考資料

- 1) 福岡管区気象台「災害時気象資料—令和7年8月7日から12日にかけての九州・山口県の大雨について—」(令和7年8月20日)
https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/chosa/saigai/20250807-0812_kyushu.pdf
- 2) 熊本地方気象台「災害時気象資料—令和7年8月6日から8月11日にかけての熊本県の大雨について—」(令和7年8月14日)
https://www.data.jma.go.jp/kumamoto/shosai/kakusyusiryou/20250806-0811_kumamoto.pdf
- 3) 熊本県「8月10日からの大雨にかかる被害情報(令和7年9月19日15時00分時点)」(令和7年9月19日)
https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/life/246982_730232_misc.pdf
- 4) 熊本日日新聞「記録的大雨 熊本の国重文石橋が被災 熊本城にも影響」(令和7年8月12日)
<https://kumanichi.com/articles/1860036>

(文責：黒田奈那・南貴久・池端祐一朗・松村圭悟)

DRI 調査レポート No.58 (2025年9月24日現在)



公益財団法人 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
人と防災未来センター
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2
TEL: 078-262-5066、FAX: 078-262-5082